

第4学年 国語科 学習構想案

日 時 令和3年6月22日（火）第2校時
 場 所 4年1組教室
 指導者 教諭 大溝 謙二郎

1 単元構想

単元名	人物の変化をとらえよう「走れ」（東京書籍「新しい国語四上」）			
単元の目標	(1)様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，文章の中で使うことができる。 (2)のぶよの心が「どこで」「どのように」「なぜ」大きく変化したのか，場面の移り変わりと一緒に結び付けて，具体的に想像することができる。 (3)「のぶよになって，心の変化を伝える二分の一人式スピーチをしよう」という学習課題を明確にして，中心人物の気持ちの変化について，場面の移り変わりに着目して，進んで文章を読み取ろうとする。			
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	① 様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，文章の中で使っている。（オ）	①「読むこと」において，登場人物の心の変化について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（エ）	①「のぶよになって心の変化を伝える二分の一人式スピーチをしよう」という学習課題を明確にして，中心人物の気持ちの変化について，場面の移り変わりに着目して，進んで文章を読み取ろうとしている。	
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）				
中心人物の心の変化について，場面の移り変わりに着目して，具体的に想像することができる。				
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）		本単元で働かせる見方・考え方		
のぶよになって，心の変化を伝える二分の一人式スピーチをしよう。		心内語やオノマトペの表現や場面の移り変わりと結び付けて，中心人物の心の変化を考えること。		
習得させる用語	①中心人物 ②場面 ③山場	習得させる方法	①中心人物の心の変化を捉える	
指導計画と評価計画（10時間取扱い 本時7/10）				
過程	時間	学習活動（「問い」を設定しても可）	用語・方法の習得	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	2	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が作成したスピーチの例を読み，その内容を考える活動をおして，中心人物の心の変化を読むという課題意識をもつ。 ○難解語句の意味を調べる。 	用語①	<ul style="list-style-type: none"> ★【態①】（ノート・発言） ○「二分の一人式スピーチ」の例を読み，何が書かれているのか明らかにし，読みの視点を考えようとしている。
二	6	<ul style="list-style-type: none"> ○通読をして，物語の設定を捉える。 ○「時」「場」「人物」に着目して，場面分けをする。 ○それぞれの場面を大事な言葉を落とさずに一文で表す。 ○物語「走れ」の構造を捉え，のぶよの心の変化をとらえる。 ○山場の一文を考える。（本時） ○のぶよの心が「どのように」「なぜ」変化したのかまとめる。 	用語② 用語③ 用語① 方法①	<ul style="list-style-type: none"> ★【思①】（ノート，教科書） ○「時」「場」「人物」が変わる部分に線を引き，物語を場面に分けている。 ★【思①】（ノート） ○大事な言葉を落とさずに，各場面を一文で表し，あらすじをまとめている。 ★【思①】（ノート） ○物語の構造を捉え，のぶよの心の変化していることを読み取る。 ★【思①】（ノート） ○周りのことばかり心配しているのぶよが，けんじとお母ちゃんの応援をきっかけに，そのままの自分を大切にしようとする変化を場面の移り変わりと結びつけて読み取っている。 ★【知①】（ノート） ○気持ちを表す語彙を豊かにして，文章の中で使っている。
三	2	<ul style="list-style-type: none"> ○のぶよになりきって，「二分の一人式スピーチ」を作成する。 ○作成したスピーチの内容と形式を共有し，本単元でわかったこと・できるようになったことについてふりかえる。 	活用	<ul style="list-style-type: none"> ★【思①】（ノート） ○のぶよの心の変化とその根拠となる出来事を関連付けてスピーチを考えている。 ★【態①】（ノート・発言） ○4つの視点でスピーチの文章を考えようとしている。

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容, 指導事項等)				
[知識及び技能] (1) オ 様子や行動, 気持ちや性格を表す語句の量を増し, 文章の中で使うこと。 [思考力, 判断力, 表現力等] 「C読むこと」(1)エ 登場人物の気持ちの変化や性格, 情景について, 場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。				
教材・題材の価値				
本教材は, 運動会の出来事とおして, 中心人物である「のぶよ」の気持ちの変化の様子が描かれている作品である。「朝の日差しが」など時や場所を表す言葉から, 場面の移り変わりを捉えやすい。さらに, 中心人物の気持ちが心内語やオノマトペを使って分かりやすく表されている部分が多く, そのときどきの人物の様子や気持ちがつかみやすい。中心人物の気持ちの変化を捉えるという, 本単元の学習に適した教材であるといえる。また, 運動会という題材は, 児童にとって身近な内容であり, 自分の体験と関連付けて, 豊かに想像を広げながら共感的に読み取ることができる教材ともいえる。				
本単元における系統				
1年「かいがら」 場面の様子に着目して読む				
2年「名前を見てちょうだい」 場面を分ける				
3年「はりねずみと金貨」 あらすじをまとめる				
4年「走れ」 中心人物の変化をとらえる	4年「一つの花」 題名の意味を考える	4年「ごんぎつね」 人物どうしの関りを考える		
5年「世界でいいばんやかましい音」 物語の構成をとらえる				
6年「風切るつばさ」 人物の関係と心情の変化をとらえる				
児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)				
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況(%)				
調査内容	概ね(6割~8割程度)	十分(8割以上)		
○様子や行動を表す語句の量を増し, 語彙を豊かにしている。				
○登場人物の気持ちについて, 叙述を基に捉えている。				
○場面の様子について, 叙述を基に捉えている。				
◎「中心人物」という用語について理解している。	登場回数が多い	様子や気持ち詳しく書かれている		
■本単元の学習に関する意識の状況(%)				
調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
◎国語の学習が好き。				
◎国語の学習が得意。				
◎単元のゴールに向かって, 自分で考え, 自分から取り組んでいる。				
◎友達の考えを聞いて, なるほどと思ったり自分の考えが変わったりすることがある。				
◎登場人物の様子や気持ちを想像する時には, 文章の言葉を手がかりにして考えている。				
○話し合いをするとき, 意見を活発に発言している。				
○友達の意見を聞いて新しいことに気付いたり, 自分の考えが深められたりして, 勉強が面白いと思う。				
○友達と意見が違っても, 自分が正しいと思ったことを主張している。				
※それぞれの調査内容において, ○は4月実施の市学調の結果, ◎は6月実施の意識調査の結果である。				

■考察

(資質・能力に関して)

(学びに関して)

3 指導に当たっての留意点（「校内研修の取組の視点」等から指導上の留意点等について明記）

<視点① 指導事項と用語・方法の明確化>

○本単元の指導事項は、「登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること」である。まずは、各場面の様子をおさえ、構造曲線を使って整理することで、物語の構造を捉えさせたい。そこから、場面の移り変わりとのぶよの心の変化を結び付けていくことで、中心人物の変化を捉えることができるようにする。

○本単元で習得させるべき用語は「中心人物」と「場面」、「山場」である。場面の移り変わりから中心人物の変化を捉えさせ、その最もたる変化の場所が山場であることと関連付けることで、用語の習得を目指す。

○本単元で習得させるべき方法は「中心人物の心の変化を捉える」である。場面の移り変わり結び付けて、心内語やオノマトペといった表現から、中心人物の心の変化を捉える活動を振り返ることで、中心人物の変化を捉える方法を言語化して習得を目指す。

<視点② 学びがつながる「課題設定」>

○のぶよからの手紙をきっかけに「のぶよになりきって、心の変化を伝える二分の一人式スピーチをしよう」という単元の学習課題を設定することで、指導事項を児童とともに共有し、見通しをもって主体的に取り組むことができるようにする。

○単元のゴールに向かうための問いかけを行い、課題意識を高め、めあてを共有していく。

<視点③ 学びを深める「課題解決」>

○全文を1枚にまとめたプリントを配布し、のぶよの心情を表す本文中の複数の根拠を、関連付けて考えさせる発問や問い返しを行うことで、場面の移り変わり結び付けて、心の変化を捉えられるようにする。

○ペア対話を適宜取り入れ、自分の考えを表現する場を確保するとともに、自分の考えと違う考えから学びを深める経験を積ませることで、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。

○「どこからそう考えたのか。」などの問い返しを行うことで、根拠を明確にした考えを形成できるようにする。

<視点④ 学びを確かなものにする「振り返り」>

○本単元の「基本」については、学習のまとめを行うことで、言葉として明確にできるようにする。

<視点⑤ 目的のある ICT 活用>

○全文を電子黒板に提示することで、他者が根拠としている叙述を視覚的にも理解できるようにするとともに、複数の叙述を関連付けることができるようにする。

<人権が尊重される授業づくりの視点>

○机間巡視により、発言が少ない児童の声をノート等から拾い上げることで、児童が自己存在感を持てるようにする。

4 本時の学習（7／10）

(1) 目標 山場の一文はどこなのか考える活動をとおして、場面の移り変わり結び付けて、のぶよの心の変化を捉えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
	5	1 新出漢字を学習する。	○児童が主体的に進められるようにする。
みとおす	5	2 前時の学習内容からめあてを設定する。 ①大きく変化した瞬間はどこか考え、本時のめあてを設定する。 ◇前時で心の変化は分かったって書いていましたよね。じゃあ、どこで、大きく変化したのですか。 のぶよの心は、どこで大きく変化したと言えますか。 【めあて】 こんきよをはっきりさせて、山場の一文を見つけよう。	○前時の学習内容と単元のゴールを想起させ、心が大きく変化した瞬間（山場の一文）はどこか問うことで、本時の課題意識を高め、めあてを設定させる。
もとめる	8	3 山場の一文を見つける。 ①3場面を音読する。 ②根拠を明確にして、山場の一文を見つける。 ◇のぶよは、最初は心の中がぐしょぐしょだったんだけど…。 ◇先生、どれか一つですか。	○それぞれの考えが大きくずれないように、第3場面の中に山場の一文があることを全体で確認してから音読させる。 ○どうすればよいのか分からない場合には、一文ずつ一緒に読み、のぶよの心は、もやもやとすっきりのとちらに近いのか問う。
ふかめる	20	③自分が見つけた一文とその根拠を伝え合う。 ◇「思わず、ぎゅんと足が出た。」が山場の一文だと思います。それは、1場面に「びりまちがないの～」とありますよね。だから、おうんされてうれしくなったと思います。 ◇「走れ！ そのまんま、走れ！」だと思います。それは…。 ◇「のぶよは、けんじのことも気にしないといけないから、体が重いと感じているのかな。」 ④もう一度、山場の一文について自分の考えを整理する。 ◇ぼくは、やっぱり「おしりが、すわっと軽くなる。」の一文だと思うな。だって、…。 ◇わたしは、「次のしゅん間、体に～」の一文に変わりました。それは、 【期待される学びの姿】 場面の移り変わり結び付けて、山場の一文を見つけている。	○「どこからそう考えたの。」などと問い返し、根拠を明確にした話合いとなるよう促す。 ○二つか三つ程度に絞れた段階で、ペア対話を行い、自分の考えを整理させる。 ○のぶよがゆううつだったのは、走るのが苦手ただけではないことを第1場面の叙述から気付かせ、第2場面との移り変わり結び付けて、山場の一文を見つけられるように、必要に応じて問い返していく。 ○全文プリント電子黒板に提示して、複数の叙述を関連付けていることを視覚的にも理解できるようにする。 ○全体で交流した後に、もう一度自分の読みを整理する時間を設定し、学びを深められるようにする。
まとめる	7	4 どのように山場の一文を見つけたのか、本時で分かったことをまとめる。 【まとめ】 1つの場面だけではなく、今までの場面を結び付けて考えることで、山場の一文を見つけられた。 5 単元のゴールに対する、本時の振り返りを行う。 ○のぶよの心の変化を深く読むことができた。 ×まだ、スピーチの内容は考えていない。	○児童の発言を拾いながら、本時の学びをまとめる。 ○まとめを書き終わった児童は、本時のまとめを具体的な言葉で表現させる。 【到達していない児童への手立て】 ○机間巡視を行い、板書を手掛かりにさせ、のぶよがゆううつだった理由を考え、そこが変化した山場の一文を一緒に考える。 ○単元のゴールに対して、本時でできたこととまだできていないことを振り返らせ、学習に見通しをもたせる。

【板書計画】

⑤

× ○

④ 場面のうつりかわりと結び付けて読むことで、山場の一文を見つけた。

のぶよになりきって、心の変化を伝える二分の一人式スピーチをしよう。

走れ

③ こんきよをはつきりさせて、山場の一文を見つけよう。

思わず、ぎゅんと足が出た。

根拠となる叙述

「走れ！ そのまんま、走れ！」

根拠となる叙述

おしりがすわっと軽くなる。

根拠となる叙述

次のしゅん間、体からみついていたいろいろな思いが、するするとほどけていった。

根拠となる叙述

【ICT活用計画】

例：教師による教材提示の計画，ICTを活用した発表，まとめ等による考えの共有の計画等

文章全体を提示する。

（ここに文章全文のスクリーンショットが複数表示されている）

前時の児童の考えを一覧にして提示する。

心の变化 ←

- ・短きより走がいや。
- ・自信がなかった。
- ・運動会のことでもやややしていた。
- ・心がくしょくしょ。
- ・やる気がない。やれない。
- ・びりまがいないの短きより走のことを思い出して心の中がくしょくしょだった。
- ・走るのがとべだからやりたくない。
- ・けんじをなぐさめていた。
- ・走るのいやな運動会はゆううつな日。
- ・短きより走のことがやややしていた。

※その他 課題解決を図る情報収集計画，検証結果やパフォーマンスの記録計画など（シーンに応じて活用計画を立てる）

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

単元終了後は、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

物語文を読む時に、本単元で働かせた見方・考え方（場面の移り変わりや結び付けて、中心人物の心の変化を捉えること）を生かして、物語に対する読みを深めていく。